

ネクスト・ファーマ・エンジニア 養成コース開催

富山くすりコンソ，次世代を担う学生に向け “くすり”に関する魅力を発信

富山市内で9月17日、「くすりのシリコンバレー TOYAMA創造コンソーシアム」（富山くすりコンソ）主催の大学生・大学院生向けイベント、「ネクスト・ファーマ・エンジニア養成コース」の現地企業見学体験会について、概要説明等が行われた。

くすりは“〇〇〇”

「ネクスト・ファーマ・エンジニア養成コース」は、全国の薬学部・理工系学部の大学3年生以上を対象にした富山くすりコンソによる人材育成の取り組みで、創薬、製剤、バイオ医薬、和漢薬などの専門講座や県内製薬企業の若手社員との交流などのプログラムで構成される。オンラインを用いた講座配信も多数行われており、本年は日本全国の大学87校（富山県外85校）、279名（同220名）の受講申込があった。

18～19日にかけて、実際に県内の企業担当者と交流しながら学習する現地企業見学体験会が実施されたが、17日にはその概要説明と、富山くすりコンソ事業責任者の森和彦氏、見学会受入れ企業の1つである日医工・岩本紳吾社長らによる講演が行われ、参加した約40名の学生が耳を傾けた。

森氏は、「くすりを学ぶのは、とっても〇〇〇です」というユニークな演題を設定して話を進めた。自身を“くすりオタク”と称する同氏は、「自分は、さまざまな知識が必要になるくすりというものを切り口に世の中を見ている。1つ自分の持ちネタ、独自の観点をもって世の中を見てみるとおもしろいことがいっぱいあるということに気づいてほしい」と冒頭で学生たちに呼びかけた。そして、くすりを学ぶのはとっても「奥深い」、「面白い」、「際限無」、「生きがい」などさまざまな側面から、医薬

品について説明。「研究・開発・審査・安全性など多様な知識と技術の広がりによってくすりは生み出される」（奥深い）、「薬学は常に進化し、常に新しい知識の習得が求められる終わりのない学びの分野。一生かけて成長できる」（際限無）、「専門家との交流、患者とのかかわり、自己成長の機会などに恵まれる」（生きがい）など、自身の経験談も交えて語った。

特に、元厚生労働省大臣官房審議官という経歴から「患者さんから、よくぞこの薬を世に出してくれたという喜びの声を聞くこともあった。これは何物にも代えがたい経験だった」との思いも口にし、製薬業界で活躍する人材に求められる資質やその魅力を伝えた。



▲森和彦氏

生産性向上に品質部門の人材が重要

企業見学体験会の受入れで本コースに参画している日医工の岩本社長は、自社の紹介の他、後発医薬品業界の全体像などをわかりやすく説明した。

同氏は医療費抑制の一環として国が後発医薬品の使用促進を図ってきた中で、急激な需要増加により生産面な



▲岩本紳吾氏

どでさまざまな問題が出てきたことを指摘。「患者、医療機関からの期待に応えるうえで安定供給確保に対する取り組みをどうしていくか考える時期に来ている」とし、特に生産、品質管理体制の整備などの対応に業界として取り組むことが必要になるとの認識を示した。そして、複数の会社が同様の製品を製造しているといった現況も踏まえ、「日本全体の工場が効率よく動けば供給不安がなくなっていくだろうという仮説の下で、国はメーカーに改革や再編を要請してきている。その対応の1つとし

て、いくつかの工場で品目を整理・集約するなど工場の生産性を上げる方策もあげられており、これから業界再編はどんどん加速化していくのでは」と述べた。なお岩本氏は、日医工も沢井製薬と製造所の集約や品目統合を行うことにも触れ、15成分30品目の後発品を集約・統合する予定であることも紹介した。

日医工は現在、国内工場で1年間に錠剤64億錠、注射剤9000万本を製造しているが、実際のキャパシティとしては、錠剤76億錠、注射剤14億本までの増産が可能だという。「キャパシティとしてはまだ伸びしろがあるが、製品があれば作れるというわけではなく、作るためには人が必要になる。そして人材といっても製造部隊だけでは製品は作れず、品質管理も重要になってくる。医薬品は品質を担保することが非常に重要になるため、品質(管理・保証)の人材を本当に欲しいと思っている」と語り、会社で活躍する1つのフィールドとして品質部門を紹介し、学生にアピールした。

